

未来をつくるミュージアム

東京都美術館学芸員 稲庭 彩和子

国際博物館会議に参加して

国際博物館会議（ICOM）0人以上が各国国際委員会で M=International Council of Museums）の25回目の 発表をするなど、日本の博 物館史上に残る出来事とな 大会が9月1日から7日ま りました。

1946年に創設された ICOMは世界で唯一かつ 最大のミュージアム（博物 館・美術館）の専門の国際 組織で、3年に1度行われ る大会の日本での開催は初 ます。世界120カ国から 過去最大となる約4600 人のミュージアム関係者が 集結し、1週間の間、多岐 にわたるテーマでフォーラ ムや会議が開催されまし た。日本からは約1900 人が参加し、このうち10

持続可能な社会へ

筆者が所属する（公財）東 京都歴史文化財団からは、 江戸東京博物館と東京都美 術館が国際委員会（CAM OC）の会議での発表やセ ッションのサポートを行っ ました。 この7日間で印象深かつ たのは、各フォーラムやパ ネルディスカッションで 「ミュージアムは過去を保 存し、公開するだけでなく、 より多様な人々が文化を通 じ社会とのつながりができ るよう、社会課題に目を向 け、市民の対話の場となり、 人々の未来をつくる拠点と なる」というミュージアム の社会的役割について議論 され、各国の実践が語られ たことでした。ミュージア ムは文化財を「保存するこ と」を第一の目的としてい るがゆえに、モノ（展示物） を中心とした思考に支配さ れがちです。しかし、ミュ ージアムは誰のためにある のかと常に問い、人々が幸 福（ウェルビーイング）社 会的にも満たされた心身共 に健康な状態）であるため にミュージアムがいかに貢 献することができるのかと

いう論点で、熱を帯びた話 し合いがなされたのです。 ICOM京都大会の基調 を示す全体会議の一つ目の 講演テーマは「持続可能な 未来への共創」でした。こ の「持続可能な」サステイ ナブル」というキーワード 概念は、2015年に国連 で採択された国際社会の共 通目標「SDGs（持続可 能な開発目標）」として認 知されつつあります。貧困、 教育、働きがい、環境、経 済、公正など21世紀の世界 が抱える課題を包括的に拵 げた「世界を変革する17の 目標」においては、国・企 業など、あらゆるセクター が担い手となることが求め られています。その背景に は、今の私たちの暮らしの ままでは近い将来、社会全 体が立ち行かなくなるとい う危機感があります。未来 が偶然に良くなることはな い。つまり幸福な未来をつ くるには今すぐアクション を起こす必要があるという 状況の中、ミュージアムこ そ公益に資するユニークな 機関として「持続可能な社 会」を実現する積極的な取 り組みができること、その大 きな可能性について述べら



ダイバーシティ・プログラム「美術館でポーズ！」東京都美術館にて photo by Ayano SO

れました。

ミュージアムの運営にお いて社会課題やSDGsへ の視点を持つ潮流は、この 20年で欧米では主流となり ましたが、日本ではこの京 都大会で初めて知り得た関 係者も多かったのではない かと思います。今後、日本 のミュージアム関係者がグ ローバルなネットワークを 持ちながら議論に加わって いくためにも、まずは国内 でこの課題について市民と 共に考える場を持つ必要が あるのではないでしょう か。

日本では初めて開催された国際博物館会議京都大会

ミュージアム・スタート このICOM京都大会の 4日目に、筆者が勤務する 東京都美術館と東京芸術大

学は共同して「ミュージア ム・スタート あいうえの」 という、上野公園内にある 九つの文化施設が連携し、 ミュージアムを拠点に子ど もと大人の社会参加を推進 する、社会課題に対応した プロジェクトについて発表 を行いました。貧困や教育 格差、多文化共生など社会 課題をテーマとした活動は 日本の美術館ではまだ事例 が少なく、なかでも201 6年から取り組み始めたタ イバーシティ・プログラム は「誰ひとり取り残さない」というSDGsの哲学にも 共鳴し、普段はミュージア ムに来る機会がない子ども たちと、創造的な活動を行 います。 例えは、児童養護施設や

日本では初めて開催された国際博物館会議京都大会

人々が孤立しない、つな がるのある社会を築くため に、ダイバーシティや超高 齢社会への対応は地方自治 体の文化政策の中でも喫緊 の課題です。美術館・博物 館はそうした社会課題に対 応し、文化財を軸に具体的 な実践を積み重ねることがで きるとともに、この取り組 みを通じて都民生活を豊か に寄与する公的な使命を持 つ機関として、今後の可能 性に満ちた場と言えるので す。

（アートコミュニケーション係長）



日本で初めて開催された国際博物館会議京都大会

（アートコミュニケーション係長）

（アートコミュニケーション係長）